

# 英米文化学会会報

第 72 号

平成 19 年 7 月 15 日



ハワイ各地には、かつてサトウキビと、それを収穫する日本人労働者を運んでいた鉄道跡がある。鉄道跡は何も語らないが、ホノルルの日本文化センターで購入した本、*Kodomo no tame ni*、『子どものために』には、彼ら日系移民の切なる願いが詰まっていた。(オアフ島にて 撮影：佐野、2007年6月)

## 目次

- ◆ 大会担当より 英米文化学会 第 25 回大会のお知らせ
- ◆ 例会担当より 英米文化学会 第 124 回例会発表者募集
- ◆ 学術担当より 紀要『英米文化』第 38 号論文募集
- ◆ 分科会担当より 分科会活動状況・新分科会会員募集
- ◆ 財務より 平成 18 年度収支会計報告
- ◆ 事務局より 会員消息

- ◆ 英米文化学会第 25 回大会のお知らせ (担当：曾村充利理事)  
第 25 回大会は以下の要領で開催されます。

日 時： 平成 19 年 9 月 8 日 (土)

場 所： 日本大学歯学部 3 号館 (地図は 5 ページ目)

懇親会場； 地下 1 階ラウンジ「いこい」 (会費：2,000 円)

最寄り駅：JR 中央線・総武線御茶ノ水、都営地下鉄新宿線小川町

東京メトロ千代田線新御茶ノ水、丸ノ内線御茶ノ水、丸ノ内線淡路町

受付開始：9:30

挨拶 〈10:00～10:10〉 英米文化学会会長 小野 昌（城西大学）

研究発表 〈10:10～17:00〉

午前の部 <10:10～12:20>

1. ハンサムな水兵『ビリー・バッド』における男性美の理想と世紀末の身体文化  
発表 岡田 桂（関東学院大学）  
司会 スティーヴ・レッドフォード（静岡大学）
2. 父親不在の意味—『歓楽の家』論考  
発表 西垣 有夏（京都学園大学）  
司会 大野 直美（東洋大学）
3. アトウッドの初期作品における構図の変化  
発表 塚田 英博（城西大学）  
司会 大津 栄子（明治大学）

午後の部 <13:20～17:00>

4. トウェインと徳富蘆花 — ふたつの聖地巡礼記  
発表 佐野 潤一郎（創価大学）  
司会 伊藤 由起子（日本大学）
5. キャリバンのおいしい食べ方  
発表 越智 敏之（千葉工業大学）  
司会 門野 泉（清泉女子大学）
6. 英作文のフィードバックの効果に関する事例研究：英語習熟度の低い学習者  
発表 上田 藍（清泉女子大学大学院）  
司会 鈴木 理枝（国際短期大学）
7. *The Seven Sisters* における *Candida* の人生と語りの問題  
発表 永松 美保（九州女子大学）  
司会 山形 亜子（東京経済大学）
8. アメリカ合衆国の同性婚を求める運動—1990年代を中心に—  
発表 吉原 令子（日本大学）  
司会 河内 裕二（明星大学）

当日会費：一般 500 円 学生 300 円

大会事務局：人間総合科学大学人間科学部 大東 俊一研究室内  
〒101-8360 さいたま市岩槻区馬込 1288

TEL：048-749-6111 E-mail：[ShunichiDaito@SES-online.jp](mailto:ShunichiDaito@SES-online.jp)

学会ホームページ：<http://www.ses-online.jp/indexj.html>

## 第 25 回大会発表抄録

1. ハンサムな水兵『ビリー・バッド』における男性美の理想と世紀末の身体文化  
岡田 桂（関東学院大学）

メルヴィルによる十九世紀末の作品『ビリー・バッド』は、現在まで読み継がれる名作の一つであるが、昨今は、ジェンダー／セクシュアリティの関心を射程に入れた視点からも、大変人気の高い作品となっている。また、この作品では、主人公ビリー・バッドの類い希なる身体美が詳細に指摘され、男性の理想像として描き出されている点も、世紀末の男性ジェンダー観を探る上で大きな示唆を与えてくれる。こうした問題意識から、ここでは文学テキスト自体の解釈ではなく、作中に表れた男性身体の描写に注目して、同じく当時のイギリスで大流行していた身体文化（physical culture）との関連を中心に考察する。十九世紀末は、社会が近代化してゆく過程でジェンダー概念が急激に制度化されていく時期でもあったが、作品に描かれたビリーの容姿が、近代の求める「理想の男性像」として提示されながらも、近代社会の要諦であるホモソーシャルリティと完全には相容れない要素 ももっていることを指摘する。

2. 父親不在の意味—『歓楽の家』論考  
西垣 有夏（京都学園大学）

イーディス・ウォートン(Edith Wharton)の『歓楽の家』(1905)には、ニューヨーク上流階級出身のリリー・バート(Lily Bart)が社交界から締め出され、最終的に死を遂げるといった下降転落の人生が描かれている。彼女は上流階級の女性として、「上品な身なり」という母親ミセス・バートの信念の元に育てられるが、このような彼女の成長に父親は関与することはなく、影の薄い存在となっている。「商業地区」での父親の収入があればこそそのリリーの地位であることを考えればこのことは不自然である。さらに、一家の破産がきっかけでリリーの運命が決定づけられるのなら、作品中では父親は重要人物となるはずだが、あえて作者は彼女が本格的に墮落していく前に父親を他界させている。このような筋書きは作者の意図的な計算によるものと考えられる。本発表ではこの小説で父親を不在にすることがリリーや19世紀後半のニューヨーク社会の描写にどのような効果もたらすのかを論じていく。

3. アトウッドの初期作品における構図の変化  
塚田 英博（城西大学）

マーガレット・アトウッドの初期作品の最後と分類されている『レディー・オラクル』(1976)は、主人公が二つの対立する世界の狭間で揺れ動くさまを多面的に描いている。目立たない性格と脚光を浴びる生活、家庭と仕事、ゴシック作家とメディアの注目を浴びる売れっ子作家、現実世界と幻想の世界、平凡さと危険性といった世界を、主人公は体験する。この構図は前作『浮かびあがる』(1972)で、主人公が犠牲者と破壊者の間を行き来していたものとオーバーラップする。しかし、『浮かびあがる』の主人公は二つの対立項の狭間で留まってしまったのに対し、この作品の主人公は幻想の世界から現実世界へと移行しようとする。そこに現れているそれぞれの主人公の行動の差異が何であるのかを、本発表で明確にするとともに、アトウッドの根底に流れている変身願望に関しても触れる。

#### 4. トウェインと徳富蘆花 — ふたつの聖地巡礼記

佐野 潤一郎 (創価大学)

米人作家マーク・トウェインは聖地巡礼の一団に同行し、1869年に *The Innocents Abroad* を発表した。その前年に生まれた徳富蘆花は、1906年日本人初のパレスチナ旅行記として『順礼紀行』を著した。両書には、権威の嘲弄、聖地に対する幻滅など多くの点で相似が見られる。また、イエスの描き方においても、玩具を取り合う兄弟喧嘩で殴られ、迫害の渦中において家族を恋慕する人間臭いイエス像を夢想したトウェイン、「田舎漢基督、平民基督」と記した蘆花、いずれも、イエスを普通の人間に引き戻す試みをしている。本発表では、トウェインと徳富蘆花のふたつの聖地巡礼記に共通する権威への嘲笑と普遍的な人間性への回帰を指向した記述が、神聖冒瀆を意図したものではなく、それぞれの国で作品発表当時に先鋭化しつつあった国家主義と、自国の文化の優位性を盲信する国民の思い上がりに対する警鐘として記された事を検証する。

\* 「順礼」は徳富蘆花の記述のママ

#### 5. キャリバンのおいしい食べ方

越智 敏之 (千葉工業大学)

『テンペスト』でプロスペローに母親を殺され、島の支配権を奪われて奴隷にされてしまったキャリバンは、なにかと西洋の帝国主義と結びつけて論じられてきた登場人物だが、食べ物との関連で見ると、タラの干物にされてしまっている。他の登場人物からタラの干物呼ばわりされているというだけでなく、プロスペローを暗殺する計画が発覚したために、タラの干物を製造する工程を模した体罰をプロスペローから受けている。エリザベス女王の時代においては海軍力の増強の必要性から、イングランドの国民は1年の半分以上の日数魚食を強制され、海軍力の基盤となる漁業の成長に貢献させられていた。またジェームズ一世の時代には、1600年に成立した東インド会社と伝統的な漁業勢力との間に確執が生じるなど、魚を取り巻く状況は政治的に複雑なものだった。こうした時代に、植民地の原住民がタラの干物に例えられることの意味を考える。

#### 6. 英作文のフィードバックの効果に関する事例研究 — 英語習熟度の低い学習者

上田 藍 (清泉女子大学大学院)

本研究の目的は、書き直しの際にフィードバックがもたらす影響を統計的に分析し、以下の2点に関して検証を行うことである。(1) 訂正された誤り、訂正されなかった誤りの種類。(2) フィードバックと誤りの種類との関連、である。被験者は私立一貫校文系普通クラスの高校2年生34名である。書き直し前後の英作文をABCの3段階評価と、更に細分化した10段階評価に分類した。誤りの種類に関してはglobal errorとlocal errorとに分類し、フィードバックは欠如している箇所や誤りを指摘するといった全9種類を行った。書き直し後の主な特徴は次の点である。(1) 語数の変化は見られなかった。(2) 全体的に評価が上がった。(3) global errorの約半数、local errorの60%-80%が正しく訂正されていた。(4) 欠如している箇所と誤りを指示する、語を指定し辞書を調べさせる、日本語訳を与えるという3種類のフィードバックが特に効果的であった。

## 7. *The Seven Sisters* における Candida の人生と語りの問題

永松 美保 (九州女子大学)

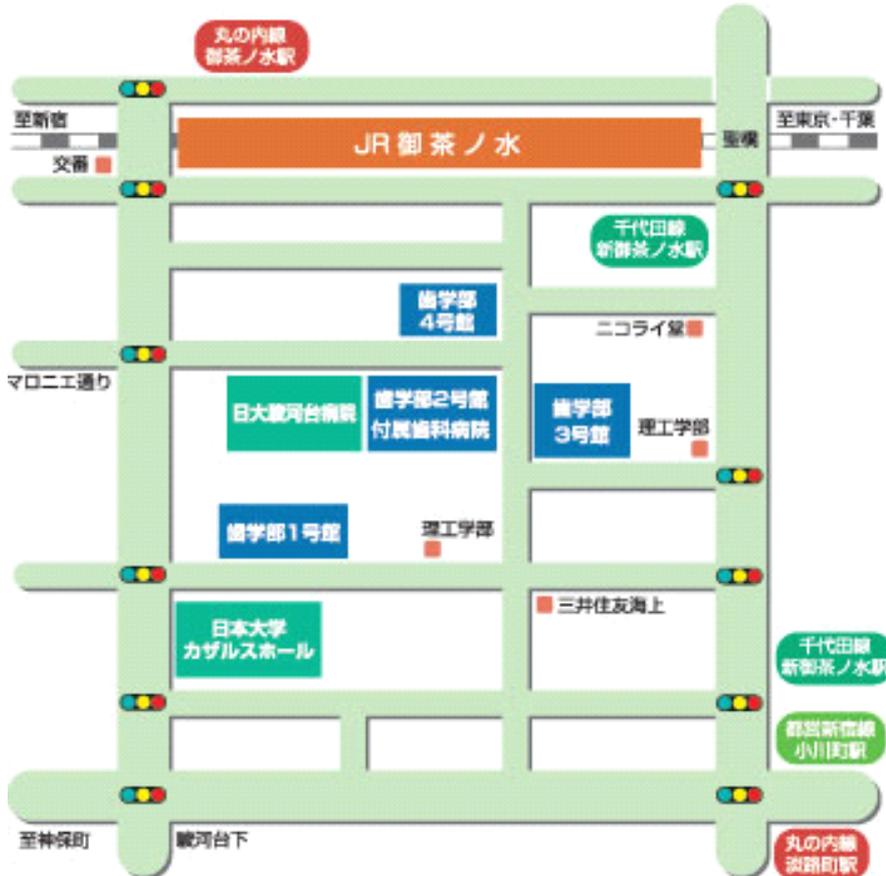
2002年に刊行された、マーガレット・ドラブル(Margaret Drabble, 1939～)の第15作である *The Seven Sisters* では、中年の女性 Candida Wilton が主人公として登場する。学業生活を終えすぐに結婚をした彼女は、長い間、主婦として家庭を預かり、生きてきた。その彼女が、夫の裏切りによって、新たな人生に踏み出す選択を余儀なくされるが、そうした逆境にも拘らず、何故か彼女は将来への期待で一杯である。人生の困難に直面して、彼女の人生がどのように展開しているのか、母、女性としての観点から主に考察する。また、4つのパートに分かれている本作品は、それぞれのパートの語りに特徴がある。特に、3部では、今までの語り手とは表面上異なった者に語らせるという技巧を作者は用いている。こうした語りの変化と Candida の人生の展開との関係も考察する。

## 8. アメリカ合衆国の同性婚を求める運動 —1990年代を中心に—

吉原 令子 (日本大学)

1970年代から現在に至るアメリカ合衆国の同性婚を求める運動は、社会の潮流や現象、市民運動、他のマイノリティ権利運動の影響を受けて発展してきた。同性愛者たちによる勇気ある運動の「成果」であることは言うまでもないが、果たしてそれだけだったのだろうか。八〇年代のエイズの流行、九〇年代のリベラル派のクリントン政権の誕生、同性愛をテーマとしたハリウッド映画の流行、ひいては、生殖医療の発展を考えると、九〇年代の同性婚を求める運動の要因が同性愛者たちの権利獲得運動に寄るだけではないことが見えてくる。本発表では、最初に、同性婚を求める運動を理解するために歴史的背景に触れ、のちに、90年代の同性婚を求める運動の活発化の要因を四つの視点—(1) 80年代のエイズの流行、(2) 90年代のクリントン政権と性的マイノリティ、(3) ハリウッド映画に描かれる性的マイノリティ、(4) 生殖医療の発展—から考察を試みたい。そして、最後に、同性婚に潜む問題性(セクシュアリティの二分法)、また、クィア理論との関係において同性婚をどのように位置づけたらよいかを考える。

## \*大会会場（日本大学歯学部3号館）



最寄り駅：JR 中央線・総武線御茶ノ水、都営地下鉄新宿線小川町  
東京メトロ千代田線新御茶ノ水、丸の内線御茶ノ水、丸の内線淡路町

### ◆例会担当より 英米文化学会第124回例会発表者募集（担当：小林弘理事）

第124回例会は、平成19年11月10日（土）に開催されます。

その例会の発表者を募集しています。発表時間は30分です。発表希望の先生は、ご氏名、所属、研究発表題名を以下のアドレスにメールでお知らせください。申し込み締め切りは8月31日です。ふるってお申し込みをお願いいたします。

発表申し込み先：例会担当 小林弘理事 HiroshiKobayashi(at)SES-online.jp

### ◆ 学術担当より 紀要『英米文化』第38号論文募集（担当：上野和子理事）

当学会の紀要『英米文化』第38号の原稿締め切りは10月末日です。

投稿原稿は郵送にて、担当者 上野和子

(〒154-0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21)までお送りください。

なお、投稿規程が平成17年2月2日付けで改定されています。次頁に付記します。

## 紀要『英米文化』投稿規程(平成 17 年 2 月 2 日)

### < 投稿規程 >

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集・学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

### < 執筆要項 >

1. 長さ・形式 和文論文は 12,000 から 16000 字数の間にまとめる。A4 用紙に 38 字×25 行、フォント 12 で打ち出す。英文論文も 4000 から 5000 語数を目安とし、A4 用紙に 65 字×25 行とする。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆署名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字標記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200語程度の英文の Abstract をつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
  - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
  - b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。
5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどいずれかを添付する。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌 5 部と抜き刷り 50 部を進呈する。負担金は一頁につき 2500 円である。ただし、始めの 3 頁は無料とする。

以上

◆ 分科会担当より 分科会活動状況・新分科会会員募集  
(担当：須田理恵理事)

## ◎分科会活動状況

分科会名 : 「発禁問題研究分科会」(旧名: 発禁文学分科会)  
分科会員 : 市川仁、小田井勝彦、上野和子、門野泉、相良英明  
佐藤治夫、須田理恵、中垣恒太郎、中林正身、松原典子  
宗形賢二、閑田朋子

活動状況 : 発行禁止となった文学作品のみを対象とするのではなく、発行に制限や圧力をかかったケースを広く考察・研究する方向性を定め、分科会名を変更しました。

会合は3月30日及び7月14日に日本大学歯学部で行われ、いずれも活発な意見の交換がなされました。今後も引き続き、勉強会を進めていく予定です。

(閑田朋子)

## ◎「植物と英米文学研究」分科会の会員募集

分科会名 : 植物と英米文学  
発起人代表者 : 川口淑子  
発起人 : 佐藤治夫、山根正弘

このたび、植物と英米文学研究分科会が結成される運びとなりました。今年度出版に漕ぎ着けた「動物と文化」を出版する分科会と対をなすような形になったのは、時宜を得たということでしょうか。私たちの物言わぬ友である植物が登場する作品における意味や意義を、多角的に研究し、最終的には共著として書籍を出版することを分科会の目標といたしたいと思います。

今回は、単に作品中で、植物の名前に言及しているというだけではなく、植物が筋の展開や全体のイメージの象徴化などの重要な役割を果たしている作品について、一緒に研究していこうという会員を募集します。作者一名につき会員一名と考えており、重なった場合は、お断りすることもありますのでご容赦ください。一応希望者が出揃った時点で、第一回目の集まりを設けます(会場は、佐藤副会長のお世話で日本大学歯学部を考えております)。こういう作品はどうかなと迷っている会員も申し込んでおいて、第一回目の集まりでの話合いに参加してみても決めることも可能です(「ジャックと豆の木」などの童話や民話の研究もありますので)、お気軽にご相談ください。

入会申込み(または相談)は以下のメール「のみ」にてお願いします。メンバー間の連絡はメールの使用が前提となっております。

Botany(at)SES-online.jp <(at)は@に置き換えて送信してください>  
多くの会員お申込みを期待しております。(川口淑子)

◆財務より 平成18年度収支会計報告 (担当: 山根正弘理事)

6月9日、例会後の臨時総会で、平成18年度収支会計報告と平成19年度予算案が承認されました。会計報告・予算案を掲載いたします。なお、会計監査は5月28日、山下信一・河村博旨両先生により行なわれました。

年会費（5,000円）の納入は、郵便振替でお願いします。受領証は領収証に代わるものです。必ず保管して下さい。大会・例会の受付では、懇親会費を集めています。納入状況は、財務担当の山根 Masahiro Yamane(at)SES-online.jp までお問合せ下さい。  
 <(at)は@に置き換えて送信してください>

年会費 : 5,000円  
 口座番号 : 00160-7-611777  
 加入者名 : 英米文化学会

### 平成18年度英米文化学会収支会計報告書

平成19年6月9日

財務担当 山根正弘

自 平成18年4月1日

至 平成19年3月31日

単位:円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,593,520	事務局費	191,926
学会費	1,143,000	学術委員会運営費	760,392
学会誌(36号)掲載料	377,500	広報費	79,406
印税	726,885	大会運営費	297,136
雑収入	18,224	例会運営費	396,422
メールアドレス使用料	5,040	理事会運営費	59,750
		翻訳プロジェクト費	5,000
		IT担当費	60,690
		出版担当費	20,000
		分科会運営費	22,048
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	109,311
		次年度繰越金	1,748,688
合計	3,864,169	合計	3,864,169

上記会計報告について、厳正な監査の結果、適正であると認めます。

会計監査 山下 信一  
 河村 博旨

## 平成 19 年度英米文化学会予算案

平成 19 年 6 月 9 日

財務担当 山根正弘

自 平成19年 4 月 1 日

至 平成 20 年 3 月 31 日

単位:円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,748,688	事務局費	250,000
学会費	1,000,000	学術委員会運営費	800,000
学会誌(37号)掲載料	310,000	広報費	120,000
印税	600,000	大会運営費	250,000
雑収入	20,000	例会運営費	170,000
		理事会運営費	120,000
		翻訳プロジェクト費	100,000
		IT担当費	50,000
		出版担当費	20,000
		分科会運営費	130,000
		出版助成費	1,300,000
		評議員会運営費	80,000
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	175,288
合計	3,678,688	合計	3,678,688

◆事務局より (担当：大東俊一理事)

<会員消息>

省略

英米文化学会会報 第 72 号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎  
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内  
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp  
<(at)は@に置き換えて送信してください>

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>